

和光市環境づくり市民会議第156回定例会 議事要録

平成30年度環境施策評価に伴う市長・教育長との懇談会

日 時 令和2年2月7日（金）16：30～17：30

場 所 市役所602会議室

出席者 （委員）峯岸会長、芝副会長、渡辺委員、友國委員、高橋勝緒委員、
小林委員、高橋絹世委員、松田委員（8名）
（和光市）松本市長、大久保教育長、中蔦市民環境部長
（事務局）環境課 亀井課長、加藤主幹、金岡主査

傍聴者 なし

次 第

1 開会のあいさつ（峯岸会長）

2 市長、教育長あいさつ

◎ 市長あいさつ

日頃から本会の皆様には、環境施策実施状況に対する評価のみならず、それぞれの地域の活動の中でも環境行政にご協力いただいていることに感謝を申し上げます。

いただいた提言については、それぞれがしっかりと受け止め、一つ一つ分析しながら今後の環境行政につなげていきたい。今回の意見交換会を有意義なものにしたい。

◎ 教育長あいさつ

日頃より環境行政にご理解とご協力をいただいていることに心より感謝申し上げます。

特に教育の分野では、NPO 法人和光・緑と湧き水の会様には、初任者教員を対象にフィールドワークを実施していただいております。和光を知らない先生たちが和光の子どもたちに和光を教えるという中で、早い段階で少しでも和光を知るといった機会を作っていただいていることに感謝を申し上げます。また、越戸川を通じても皆様には様々なご支援をいただいている。

県の指導の重点方針でも、様々な団体と連携して環境について子どもたちに指導をしていくということが位置づけられている。皆様方のご協力がなければこういった活動は推進できないので、今後ともよろしくお願ひしたい。

3 平成30年度環境施策実施状況に対する評価と提言について

◎ 峯岸会長より、評価・提言について説明をいただく

4 平成30年度環境基本計画推進調整委員会について

◎ 中蔦市民環境部長より報告

市民会議の評価・提言のフィードバック、各課からの平成30年度の事業状況、方向性等の報告、特に都市整備課からは、最近の動向を含めた報告（具体的には、午王山の斜面地の一部について公有地化を進める予定）もされ、全庁的な情報の共有と必

要な市内調整を行えるような体制の整備に努め、各課とも環境に配慮する考えであることを確認した。

施策の推進に当たっては、取組が着実に進んでいる施策がある中で、困難な課題もあるが、厳しい財政状況を踏まえ、国・県等のいろいろな制度の活用を図りながら、行政一丸となって取り組むので、引き続きご理解・ご協力を賜るようお願いしたい。

5 意見交換

◎ 環境づくり市民会議会員からの意見

【峯岸正雄会長】

市民会議意見の取りまとめは今回で5回目となった。5年度分の内容を改めて見返すと、構成している要素は共通しており、残念ながらあまり変わっていないようだ。やはり一番重要視している緑地と湧水地の保全が不十分だということに問題がありそうだ。令和元年度も残りわずかだが、この間起こったことを思い返しても、先ほど説明した平成30年度の評価と基本的なものはほとんど変わらないであろうことが残念だ。その流れを断ち切るような画期的なことを早期に実現していただけるようお願いしている。

【芝勝治副会長】

和光市に来て33年になるが、会社に勤めていた頃は、朝から晩まで仕事をしていて周りの環境が分からず、同僚に和光市は湧き水が多いんだよねと言われても知らなかった。7-8年前に湧き水の会に入り、そこで緑を大切にすることや湧き水のことを聞いた。それから緑の保全に携わっているが、当時と比べると緑が減る一方でなんだかむなしくなるような感じがする。なんとか緑を増やす方法をいつも考えている。計画は漠然としていて、実際に実施される成果が目に見えてこない。そんなふうに思いながらも、自分はこれからもがんばって緑の保全に携わっていきたいと思う。

【渡辺康三委員】

和光市に来て50年以上になるが、胸を膨らませながら和光市にずっと住むことを決めた記憶がある。池袋のサンシャインビルの上から見える、緑がいっぱいのところが和光市だとよく聞いていた。自分で市内を歩いていると、緑がいっぱいあるなと感じていた。ところがどんどん緑地が消えていっている。緑は減ったが働き盛りの人口が増えて、これはある意味和光市にとってはいいことかもしれない。若い人がいっぱいいて将来非常に希望をもって生活ができる、今後とも期待できる都市であると思う。しかし、宅地化されることによって、和光市の良さが一つずつ消えていって、将来はごく普通の都市化したまちになっていくというのは寂しくてしょうがない。いろいろな問題はあるけれど、やはり最低限緑地はどうしても残して置いてほしい。緑地は消えてしまうと取り返しがつかない。まだ遅くないので、ぜひ計画に基づいて和光市のいいところは残すようがんばっていただきたいし、そのような施策をとっていただきたい。

【友國洋委員】

施策実施状況調査票の中で、緑地の件については、社会資本整備総合交付金等の補助金を活用して緑地の公有地化を図ると書いてある。簡単ではないと思うが、ぜひともチャレンジして、国とのコンタクトを密接にし、しっかりやっていただきたい。

また、ついに午王山が国指定の史跡になった。やっぱり粛々と続けていくことが大事。国が指定したことで、市民も職員も市にすごいものがあつたことに気付いたと思う。市民としても非常に誇りに思っていることではないかと思うので、ぜひとも整備を進めていただきたい。

ふるさと納税の関係で基金があるというので、ホームページで探して遅ればせながら寄付をした。基金があることを市民にもっと訴えかけていただきたい。

市長がよく「稼ぐ力」というのは、基本的には人と制度・設備等とのイノベーションで、生産性を上げないといけないと言っているが、市の計画もばらばらと作るのではなくて、第五次総合振興計画策定と合わせて様々な計画が統合的になるといいと思う。職員もよく分かる、市民もよく分かるというものにしてほしい。

【高橋勝緒委員】

計画づくりについては、文章を作るだけではなくて、実行されなければ意味がないと思う。湧水・緑地の消失が取り返しのつかない状況に近づきつつある。公有地化などの多様な対処が必要だと思う。財政難ではあるが、ぜひトラスト制度やそれに関連する寄付制度の改善、緑地や環境保全につき込むような寄付制度の充実が必要だと思う。都市整備課との協議をさせていただいているが、大変進行が遅いと感じざるを得ない。昨年寄付していただいた企業が、今年度も寄付の準備をしてくださっていると聞いている。受入れ体制の整備をもう少し早急に進めていただかないと、せつかくの民の寄付の機運がそがれていくような気がしてならない。ぜひ今回の評価を踏まえて具体的に進めていただきたいと思う。

【小林新委員】

一つは、午王山遺跡が国指定の史跡になることは非常に喜ばしいと思うが、遺跡周辺に家が建ってきたりしているのと、斜面林保護との統一化を図り、未来に向けた保全をしていただきたい。また、せつかくの史跡なので学校教育でも利用していただきたい。

二つ目は、市の北にあるバス路線で、リアリティ和光行きの路線が昨年新設され、非常にありがたく思っている。ただ、直行便しかないの、出来れば氷川神社あたりに中間的な停留所を作り、住民がよく利用できるようになったらいいと思う。

三つ目は、水道道路が拡幅されるということで、コースが決まりつつあるようだが、市民が利用しやすいように、横断の信号だけではなく、アンダーパス等を作ることに

よって、より市民が安全に生活できるような道になるよう検討してほしい。

【高橋絹世委員】

湧き水の会としてスタートし、20年経つ。活動を始めたころは、湧き水がいろいろなところから出ていたが、あまり注目されてはいなかった。最近は湧き水があるまちとしてかなり浸透してきていると思う。市民意識調査でも、交通の便が非常に良いことと緑の多い環境が好ましいという結果が出ており、緑地・湧水地をずっと残したいという市民の意識が高まってきているのではと思う。しかし、意識とは反比例して、ここ2、3年で急速に重要な緑地・湧水地が消えていってしまっている。特に白子地区の状態を見ていると、大坂ふれあいの森は一応緑地として存続しているが、その隣接地が開発され、白子川のグリーンベルトにもマンションが次々と建てられている。緑地の消失がどうしても止められないような勢いで進行している中で、もう少しスピーディーに緑地保全のための財源や方策の検討を市民も参加する形で進めていただきたい。

また、和光市の自然環境マップを環境課との協働事業として作成した。市民や子どもたちに親しみやすいマップとして活用していただいている。そのマップの在庫がなくなってしまったため、今の状況の変化も入れた改訂版を早々に発行できるような体制を作っていただきたいと思う。

【松田委員】

和光市に来てから50数年経つ。最近は年も取ったのでいいことばかりを思い出す。昔は新倉田んぼと呼ばれる農地が広がっていたが、今では資材置き場や大型トラックの駐車場しかない。昔は見えた富士山も今は見えない。環境は点じゃなくて線になっていないといけない。越戸川でも白子川でも点じゃなくて線で環境を残してほしい。市民会議ももっと若い人が入らないとだめだと思う。

◎ 市長・教育長からの回答等

【松本市長】

来年度に向けた課題として、午王山の話をしていただいたが、国指定というところを踏まえて、斜面林を売ってもいいという話を何件かいただいている。財源的にも当案件は8割が国負担であり、非常に有利なため、時間がかかるかとは思いますが、徹底的に予算をつける方向で進めている。

今回の台風19号で白子に土砂崩れがあった。再建が不可能な道路などもあり、例えば、そこは住めないから寄付をしていただくような制度を作って、そこを市として土留めをし、斜面林の回復をしていくようなスキームを作ろうと建設部と相談している。

それから逆に、ある程度の規模でもう一度住めるような形に再開発をしたいという場合にも、そのお手伝いをしている。例えば、市では斜面地のマンションの規制

をかなり厳しくやっているが、今の急傾斜地の危険な住宅地について、緑地をある程度確保する形であれば、規制を緩和する中で、緑地を再生しながら、しかもその安全を確保していくようなスキームを建設部の方で検討している。レッドゾーン・イエローゾーンに指定されているところが斜面林であることが多いので、そこを対処していこうと考えている。

今回の大規模災害で大きな課題となったが、地球温暖化に伴う気候変動にも関連する今一番大きなプロジェクトとしては、老朽化したごみの焼却炉を建替えて、いわゆる熱回収率がよかったり、効率のいい最新式のものに変えることで、二酸化炭素排出量の削減に寄与していけると思っている。

それから、トラストとは違うが、樹林公園の枯れてしまったところに市制50周年ということで市民から寄付をいただき、桜を植えていこうというプランがあり、来年度の予算化をしている。

直行バスの件は、バス会社と相談しながら、利便性を高めていければと思っている。

たくさん論点があり、特に緑の問題では、どのように守っていけるのかが一番の課題になっていると思うので、引き続き市民のご寄付もいただきながら取り組むとともに、トラスト制度については市だけではできないので、皆さんと協働しながら、まずはベースとなる仕組みづくりをしっかりと検討していく必要があると思っている。

また、自然環境マップについては、来年度に予算を補正する等して更新できるようにしたい。

【大久保教育長】

私の方からは、環境を教育とどう絡めていくかという話をさせていただく。

先ほどの昨年度の環境施策に対する評価の中で、ESGやSDGsといったキーワードがあったが、SDGsの17の目標のうち、環境に関わる課題は7と13と14と15である。

今までは、こういう意識がされていなかっただけで、SDGsが入ってきたから改めてやるというのではなく、その内容は今までもやってきていることだ。

今回、2030年までの国際目標というのが具体的に出されたことによって、SDGsが非常にクローズアップされていて、これをどのくらい具体的に教育活動の中に反映できるかということになるのかなと思っている。

今、これをそれぞれの学校の教育課程のどこの単元に落とし込むかということを経長会の方で指示している。

環境基本計画の3つの望ましい姿の位置づけとSDGsのそれぞれの目標と具体的にリンクさせながら学校での教育活動に反映していきたいと考えている。

6 閉会

次回の会議は3月17日(火)15時から603会議室で開催する。